

しろくま通信



前々回より「お盆」について書いています。

六道珍皇寺近くの飴屋に毎晩あめ玉を買いに来る女性がいるので、不審に思った主人が後をつけてみると、寺の墓場に入って行き、そこで見失います。翌日、その話を聞いた住職が最近葬られたばかりの妊婦の墓を開けてみると、そこには朽ち果てようとする妊婦の遺体の横で、元気な赤ちゃんが飴玉をしゃぶっていました。このように死後に出産した我が子のために、飴玉を求めた女の幽霊の話が語られており、今でもその飴屋で同じ飴が売られています。この赤ちゃんは寺で育てられたのち出家して、高僧になったと伝えられています。

京都物 幽霊 子育て飴



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！